

・ ・ 嫌な予感は的中した ・ ・ 。

・ ・ 石原のことだ ・ ・ 。

・ ・ その日の夜あいつは一人で僕の部屋に入ると、にやけた顔で僕を誘った ・ ・ 。

石原「へへへ ・ ・ ぼっちゃん、よかったらちょいとあっしに、つきあってくれやせんかい?
・ ・ へへへ ・ ・ いやあね ・ ・ 考えてもみたらなんだかんだぼっちゃんも年頃だ ・ ・ 。

遅すぎるくらいでしょう?へへへ ・ ・ 」

かずゆき「なっ?なんのことだ石原? ・ ・ 」

・ ・ 今思えば強い意志ではっきりとことわれば良かったのだ ・ ・ 。

・ ・ この男は人間を墮落の道に引きずりこむとんでもない男だ ・ ・ 。

・ ・ 石原は自慢の外車に僕を乗せると、アクセルを踏んだ ・ ・ 。

・ ・ 車は人気のない林道を抜けると僕の視界に現れたのはイタリアテイストの怪しげな洋館だった ・ ・ 。

・ ・ どうやら石原の秘密の別荘らしい ・ ・ 。

・ ・ なんだかまるで江戸川乱歩の世界にでも入ってしまったかのような不気味な館だ ・ ・ 。

・ ・ 洋館の中に入ると、屋敷の中からピエロのようなメイクをしたメイドが現れた ・ ・ 。

石原「私の趣味なんですがね ・ ・ まあ気にしないでください 」

かずゆき「? ・ ・ きっ気にするに決まってるだろ! ・ ・ ・ ・ 」

・・・メイドは首輪をつけた大型犬を引き連れていた。
・嫌・・・犬なんかではない・・・・・・・・・・・・・・・・人だ・・・
・はっ・・・首輪をつけられた・・・裸の女の人だ！！・・・。

・・・これは現実なのか？
・・・またいつかのようにどこかで眠ってしまって夢を見ているのではないのか？

・・・首輪の女は顔にマスクを着けられたまま一瞬僕を見つめた。

・・・僕はドキッとして思わず目をそらした・・・。

・・・メイドは鎖を引っ張りながらそのまますぐ横のドアを開け中に入った・・・

・・・もちろん首輪の女もよつんばいのまま部屋の中に入った・・・。

石原「・・・さあ・・・ぼっちゃんも・・・・・・・・部屋の中をご案内致しますよ・・・」

・・・いったいなにが始まるというのか？

・・・その女はベッドの上でよつんばい姿にされていた・・・。

・・・輸入物のボンテージ姿で腕を縛られたその女はマスクの隙間から僕を見ていた・・・。

石原「へへ・・・あっしからぼっちゃんへの、ささやかなプレゼントです。

このまま楽しむのもいいんですがね・・・

・・・この女、実にはいい女なんで・・・

見てみませんか？

」

・・・石原がゆっくりと女のマスクを脱がした・・・

・・・！！・・・夢だ・・・夢であってほしい・・・僕は現実を疑った。

・・・・・・悲しげな目で僕を見つめるその女は・・・夏美さんだった・・・！

・・・ゴロゴロゴーン！・・・

・・・薄暗い窓の外が落雷の音とともに発光した・・・。

夏美「あむうううーあむううううー」

・・・その光は間違いなく夏美の表情を照らす・・・。

・・・・・・なぜ?どっどうして夏美さんが??・・・!!

・・・首を振り抵抗する夏美・・・石原はにやけた顔で夏美が口で咥えている猿ぐつはを外した・・・。

・・・メイドはバイブレーターを石原に手渡した・・・。

夏美「はあはあはあ・・・かずゆきくん、やめて!!私とかずゆきくんはそんなふしだらな関係じゃない!!」

・・・この世の物とはおもえないような、まるで天使か果実のような純白の女尻・・・。

見事な丸いラインの夏美の美しくも淫靡な尻・・・。

・・・僕は彼女の裸体を見た瞬間、もうそこに理性は無かった・・・。

・・・・・・入れてみたい・・・。

・・・・・・夏美さんのお尻に自分のおちんちんを入れてもいいのなら・・・

・ ・それが許されるのなら ・ ・
・ ・入れたい ・ ・。

・ ・僕は突き出した尻から丸見えの、ぐしょぐしょの夏美のおまんこを
一指し指でまさぐってみた ・ ・。

夏美「！！はっ ・ ・ ・ ・ やめて ・ ・ やめてかずゆきく、はん ・ ・ やっいやああーん ・ ・ 」

・ ・抵抗し尻を振る夏美は僕の指先に敏感に反応し
愛液をポタポタとシーツの上に垂らしている ・ ・。

夏美「はっはうん ・ ・ はあ ・ ・ かずゆきくんお願いそんなとこ、ひいあぐっ！」

・ ・まるで指が貫通して潰れた卵の黄身のように夏美のマンコはネットリとした
糸を引きながら透明の塊をシーツの上に垂らす ・ ・。

夏美「くううーんいやああーん!!」

僕は調子にのって皮向けて発起した夏美のクリを
指先でくるくると回転させてみた ・ ・。

夏美「！んぐうあ、くはあああ！」

・ ・びゆるるるる ・ ・ ふしゅうううーー ・ ・ ・

・ ・夏美は宙を飛ぶようにマンコから勢いよく潮を跳ばした ・ ・。

夏美「はふうあっ ・ ・ あううっ ・ ・ ひいうん! ・ ・ いく私いく
・ ・ ふううあうううっ!! ・ ・ はあはあはあはあはあはあ ・ ・ ふぐうううっ!! ・ ・ 」

・ ・ 石原は僕にバイブレーターを渡した。
・ ・ こっこんなに大きな物が夏美さんのこんな小さなところに本当に入るの??

夏美「やあああいやあああー！！はあはあそれは無理・ ・
私でなくなるやあ、やめてええええー」

夏美「ひいいあぐおおおーうん!!
きいいいううーん！！はっはっはっはっはうはう！！」

・ ・ 奥までバイブを挿入してみた・ ・。

夏美「あううーはぐうううーん」

石原「ぼっちゃん・ ・ もっと強くしてみてくださいバイブのツマミを MAX に・ ・」

夏美「キャアアアアー！！ひっ人でなしいいひいひいー！！」

・ ・ 僕はバイブをマックスにして激しく前後にバイブを動かした・ ・。

夏美「いひいいいやあああーう！！止めて止めて止めてええええひぐううう！！」

・ ・ 夏美は白目を出しヒクヒクと腰を痙攣させながら喘いでいる・ ・。

・ ・ 僕と石原は勃起したまま裸体になると、失神寸前の夏美をベッドの上に寝かせた ・ ・ 。

石原「ぼっちゃんは筆卸だから前からだ ・ ・
あっしはこの女のケツの穴をいただくとしやすぜ ・ ・
へへ ・ ・ ちよいと匂うがあっしはこっちのほうが好きだ ・ ・
女の少し鼻にちんとくる匂いを嗅ぎながらするのが好きなんですよ ・ ・ 」

・ ・ 僕はペニスを夏美のぐしょぐしょになったマンコの中に
ゆっくりと挿入させた ・ ・ 。

夏美「だめ！！かずゆきくんだめ!!あううっ ・ ・ やああ ・ ・ !!
ひiiiiiiiiii—ん！！」

・ ・ 造形物のような見事なラインを描く夏美のウエスト ・ ・
それでいてぷりっとした骨盤張ったいい尻だ ・ ・ 。

夏美「ひいやあん ・ ・ だめ ・ ・ そんなに奥まで入らない ・ ・ あぐうううー」

・ ・ ヒダが絡みついて心地よい程に抵抗する夏美のおマンコ ・ ・
夏美さんの果実のような尻を両手で押さえたまま
一気に力強く中に入れてみた ・ ・ 。

夏美「あうううう!! ・ ・ かずゆき ・ ・ くん ・ ・ いうう ・ ・ お願い抜いて ・ ・ 抜い ・ ・ て
・ ・ いううん ・ ・ 」

・・石原は自分のペニスをしごきながら
先端を夏美の尻の穴に入れタイミングを見つけた瞬間
一気に夏美の腸内に挿入した・・。

夏美「はぐうううー・・いったあああーいたっ助けてええええーひいいいんお
願い許してええええー」

・・石原はしだいに腰を動きのペースを早めた・・。

夏美「あああううんんああーへんたーいいいいいい・・あっあん・・あうん・
・あああん・・あううんあう」

・・僕はじわじわとくるまるでペニスが溶けそうな快楽に耐えきれず
動物のように激しいリズムで夏美の中でピストンさせた・・。

夏美「あひいいいーひいあああーん！！あああーんあへひあうひいあん・
・あっはっはっはっはうっ！！
ひいいう気持ちいいいうぎいもちいい石原さんとかずゆぎぐんのが
おじりとまんこで踊っででいぎそおおおおおおーん！！あはあいああぐう
うむううー」

・・二穴を責められ夏美ももはや強烈な快楽を否定できない。
・・尻の中で石原がペニスを挿入するたびに夏美のおマンコから
じゅわぁと大量の愛液が出てくる・・。

夏美「ひあうううすごおおおい気持ちいいよおおおおーくあああーん・・・」

夏美「はあはあう・・・かずゆきくん・・・もっとおおお・・・
もったかずゆきくんのおもいきりついてええええーあひううんぐっ！！」

・・・いつも夏美さんの体を想像してオナニーしてたのに
・・・今夏美さんとこんなにエッチなことをしている・・・。

かずゆき「うっ!!」

・・・僕は高級なシャブシャブ肉のように締めつける夏美のおマンコに
耐えきれず数滴射精をした・・・だがすぐに復活し一瞬にして元の硬さに戻ったとたん
ふたたび激しく夏美のマンコでピストンさせた・・・。

夏美「あっあうううあん・・・ひあん・・・いあう！！もっとおおおおーもっとめちゃめちゃ
にしてええええー」

・・・僕と石原は雄犬の交尾のようにぜえぜえしながら
同時に腰を回転させた・・・。